

見本

一問一答

高校入試の社会科

テキスト作成の素材

(付録：令和6〔2024〕年の記述と論述の出題傾向分析)

shakai100.com / 経済学道場

本教材の無断転載を禁じます。

目次

表紙	1
目次	2
はじめに〔見本〕	4
第1部 教材作成の素材	5
【世界地理】	6
1. 地球儀〔見本〕	7
2. 世界の自然〔見本〕	10
3. 人々の生活	13
4. 東アジア	15
5. 東南アジア	17
6. 南アジア	20
7. 西アジア	22
8. ヨーロッパ	24
9. ロシアと周辺国	27
10. アフリカ	28
11. 北アメリカ	30
12. 南アメリカ・中央アメリカ	35
13. オセアニア	37
【日本地理】	39
1. 日本の国土	40
2. 九州地方	60
3. 中国・四国地方	63
4. 近畿地方	67
5. 中部地方	70
6. 関東地方	76
7. 東北地方	79
8. 北海道地方	82
9. 世界の中の日本	84
【歴史】	87
1. 原始・古代	88
2. 古代の日本	97
3. 中世の日本	109
4. 近世	123
5. 近代	137
6. 二度の世界大戦	154
7. 現代	163
【公民】	168
1. 現代社会	169
2. 基本的人権	171
3. 日本国憲法	173
4. 選挙	180
5. 国会（立法権）	183
6. 内閣（行政権）	188
7. 裁判所（司法権）	192
8. 地方自治	196
9. 経済	200

10. 地球社会	218
第2部 令和6(2024)年の出題傾向	226
1. 全体の傾向と設問の分類	227
2. 記述(短答)の出題傾向 (一部公開)	236
3. 論述(説明)の出題傾向 (一部公開)	251
むすび〔見本〕	279

はじめに

本教材は、社会科の教材作成用の素材です。

もとになったのは「一問一答 高校入試の社会科」(2023年版)(合計1,275問:世界地理[204問]、日本地理[237問]、歴史[486問]、公民[348問])で、2024年実施の試験問題の分析を加えています。

本教材の利用目的は、社会科のオリジナル教材を作成するための素材として提供することです。

本教材の内容をそのまま使用するのではなく、自由に編集・加工してご利用ください。

利用規約

本教材のご利用について

本教材は、社会科の指導に役立てていただくための素材です。以下の範囲内で、ご利用いただけます。

- 本教材を活用し、新たなオリジナル教材を作成することができます。
- 本教材を参考にして、新しい問題や解説を作成し、教育活動に活用できます。
- 個人利用・学校・教育機関での使用も可能です。

禁止事項

以下の行為は禁止します。

- 本教材の内容をそのまま転載して販売すること(例:「教材の素材」としての販売)。
- 本教材の著作権表示を削除・改変すること。
- 本教材の内容をNFT化し、デジタル資産として販売すること。
- 本教材を違法・公序良俗に反する目的で使用すること。
- 本教材の内容をそのままSNSやWebサイトに転載すること。
- 本教材をAI学習データとして提供・販売すること。
- その他、当方が不適切と判断した利用方法。

免責事項

- 本教材の利用によって生じた損害について、当方は一切の責任を負いません。
- 本教材の内容に関しては必ずしも正確性を保証するものではありません。ご自身の責任でご活用ください。

利用停止

当方は、事前の通知なく、本教材の提供を停止・変更することがあります。

第1部 教材作成の素材

本教材は、社会科のテキストや設問の作成に活用できます。

(1) テキスト作成の素材として

教材作成の際に活用できるよう、「一問一答 高校入試の社会科」の文章をそのまま入力する手間を省いた形式にしています。

設問は合計で1,275問あります。その内訳は、世界地理が204問、日本地理が237問、歴史が486問、公民が348問です。

(2) 編集しやすい構成

単語を単位にした構成とし、加筆・編集がしやすい形になっています。

(3) 追加の補足情報

第1部の一問一答形式の素材集に加えて、付録として第2部で2024年の社会科入試の記述・論述問題の出題傾向を分析したものを掲載しております。

第1部 教材作成の素材

- 【世界地理】
 - 【日本地理】
 - 【歴史】
 - 【公民】
-

【表記について】

- 番号…「一問一答高校入試の社会科」では、通し番号を入れておりましたが、テキストの作成上の便宜を考えて番号は記載せず、()だけを記しております。
- 設問…単語を基本的な構成単位として示しております。
- 解答…【答】として示しております。
- 備考…【補】では、問の中の重要な語を「」で示し、関連する語は『→「」』という形で示しております。加えて、こぼれ話や追加の情報、近年出題された設問例なども記しております。

【世界地理】

1. 地球儀〔見本〕
2. 世界の自然〔見本〕
3. 人々の生活
4. 東アジア
5. 東南アジア
6. 南アジア
7. 西アジア
8. ヨーロッパ
9. ロシアと周辺国
10. アフリカ
11. 北アメリカ
12. 南アメリカ・中央アメリカ
13. オセアニア

1. 地球儀

(大陸と海)

()
地球の表面、海洋と陸地（海と陸）、面積比
【答】 7 : 3

()
三大洋 (3 大洋)
【答】
太平洋
大西洋
インド洋

()
六大陸 (6 大陸)
【答】
ユーラシア大陸
アフリカ大陸
北アメリカ大陸
南アメリカ大陸
南極大陸
オーストラリア大陸

()
〔三大洋〕、ユーラシア大陸、南北アメリカ大陸、オーストラリア大陸、面している
【答】 太平洋
【補】 ←太平洋が面している大陸は

()
〔三大洋〕ユーラシア大陸、南北アメリカ大陸、アフリカ大陸、面している
【答】 大西洋
【補】 ←大西洋が面している大陸は

()
〔三大洋〕ユーラシア大陸、アフリカ大陸、オーストラリア大陸、面している
【答】 インド洋
【補】 ←インド洋が面している大陸は

()

最も面積、大きい大陸

【答】ユーラシア大陸

()

カナダ、大陸

【答】北アメリカ大陸

【補】ロシア→ユーラシア大陸

()

三大洋、すべてに面している、ユーラシア大陸と (大陸)

【答】南極大陸

()

ユーラシア大陸、ヨーロッパ州と (州)

【答】アジア〔州〕

【補】←ロシアの州は、ヨーロッパ州と (州)

()

オーストラリア、(州)、【カタカナで】

【答】オセアニア〔州〕

【補】カタカナの指定がないと「大洋州」も可になってしまいます。

(地球儀)

()

地球上の位置をあらわすため、北極と南極、結ぶ、線

【答】経線

【補】この線で「経度」をあらわす

()

経度0度、イギリスのロンドン、通る、線

【答】本初子午線

【補】→「イギリス」「ロンドン」

()

1時間の時差、経度、何度

【答】経度 15 度

【補】時刻が進むか遅れるかについては、地球の自転の方向にふれるとよいと思います。

()

時差によるずれを調整、経度 180 度、地点を目安、引かれた、線

【答】日付変更線

【補】日付変更線を「東から西に移動」→1 日進める / 日付変更線を「西から東に移動」→1 日遅らせる

()

地球上の位置をあらわすため、経線と直角に交わる、線

【答】緯線

【補】この線で「緯度」をあらわす

()

緯度 0 度、線、地球、北半球と南半球に、分けられる

【答】赤道

【補】北半球→陸地が多い / 南半球→海洋が多い

(国土面積)

()

世界、最も、国土面積、大きい国。日本の面積、約 45 倍

【答】ロシア連邦

【補】→第 2 位カナダ、第 3 位中華人民共和国、第 4 位アメリカ合衆国、第 5 位ブラジル

()

世界、最も、国土面積、小さい国。イタリア、ローマ市内

【答】バチカン市国

【補】→キリスト教、カトリック

2. 世界の自然

(変動帯)

()

【2021 年度より後に入学した生徒】

地球上、地震の震源、火山、帯のように分布、〔場所〕。火山の活動、地震の発生、大地の変動、活発、（ 帯）

【答】 **変動帯**

()

日本列島、アンデス山脈、ロッキー山脈、フィリピン、（環 地域）の変動帯

【答】 (環) **太平洋 (地域)**

【補】 ←インドネシア、ニューギニア、ニュージーランド

()

ユーラシア大陸の南部、山脈。ヨーロッパのアルプス山脈周辺から、〔この山脈を通る〕、変動帯、東南アジア、インドネシア、至る（続く）

【答】 **ヒマラヤ山脈**

()

【2020 年度までに入学した生徒】、日本列島、アンデス山脈、ロッキー山脈、フィリピン、（ 造山帯）

【答】 **環太平洋造山帯**

【補】 2024 年の入試でも記述でも出題されました（岡山県）。

()

ユーラシア大陸南部、ヨーロッパ、（ 造山帯）

【答】 **アルプス=ヒマラヤ造山帯**

(世界の気候)

()

東南アジア、南アメリカ、アフリカ、赤道の周辺（まわり/近く）、1 年（年間）を通して（通じて）（1 年中）、気温が高い、気候、地域、（ 帯）

【答】 **熱帯**

()

赤道の周辺、1 年（年間）を通して（通じて）（1 年中）、気温が高い、地域、

林（森林）

【答】熱帯雨林

○

赤道の周辺（まわり/近く）、乾季、雨季、〔たけの〕長い草原、地域

【答】サバナ

○

日本の大部分（北海道以外）、四季〔の区別〕、気候、地域、（　　帯）

【答】温帯

○

ユーラシア大陸、東側、夏、高温、冬、低温、年間を通して（通じて）、降水量が多い〔多雨〕、（　　気候）

【答】温暖湿潤気候

【補】漢字で答えるのは難しいので、気候の特徴と地域を結びつける選択問題で出題されることが多いようです。

【補】南アメリカのパンパなどもこの気候にあたります。

○

〔温暖湿潤〕気候に影響、季節によって向きが変わる、風。夏は、海から大陸、冬は、大陸から海、吹く

【答】季節風（モンスーン）

○

ユーラシア大陸、西側、年間の気温差が小さい、雨の年間差が少ない、（　　気候）

【答】西岸海洋性気候

【補】漢字で答えるのは難しいので、気候の特徴と地域を結びつける選択問題で出題されることが多いようです。

【補】ニュージーランドなどもこの気候にあたります。

○

〔西岸海洋性〕気候に影響、西寄りの風〔（ほぼ）西から東へ吹く風〕。ヨーロッパ、暖流の北大西洋海流、この風（偏西風）、影響、高緯度のわりに、温暖

【答】偏西風

○

イタリア、アメリカ西岸地域（西海岸）、夏、高温、乾燥、冬、温暖、雨が降る、（　　気候）

【答】地中海性気候

○

日本が夏（冬）の時、オーストラリアは冬（夏）。オーストラリア、

() に位置しているため (にあるから)

【答】 **南半球**

【補】 「季節が逆」というのは混乱しやすいと考え、この表現にしました。

()

さばく、1年(年間)を通して(通じて)(1年中)、雨(降水量)が少ない(少雨)、気候、地域、() 帯)。中緯度、地帯、内陸部、多い

【答】 **乾燥帯**

()

さばくの周辺(周り)、雨(降水量)が少ない(少雨)、が(ものの)、[たけの] 短い草原、みられる、地域

【答】 **ステップ**

【補】 ユーラシア大陸のステップのひろがり、モンゴル帝国の拡大と結び付けると面白いと思います。

()

夏は気温が高くなる、が(ものの)、冬の寒さ、きびしい、気候、地域、() 帯)。ユーラシア大陸や北アメリカ大陸の北部、北海道

【答】 **冷帯(亜寒帯)**

【補】 冷帯(亜寒帯)の気候の説明はやや複雑なので、地図とむすびつけるほかに、ユーラシア大陸や北アメリカ大陸の「タイガ」とむすびつけるとよいと思います。

()

北極海、周辺(周り)、南極大陸、1年(年間)を通して(通じて)(1年中)、気温、低い、気候、地域、() 帯)。緯度、高い。北極圏と南極圏では、夏、真夜中でも、薄明るい、白夜、続く

【答】 **寒帯**

()

[寒帯で] 夏、地表の氷、とける、こけ類が生える、気候

【答】 **ツンドラ**

()

同じ緯度、で[あって] も、標高が高く、気温が低くなる、() 気候)

【答】 **高山気候**

【補】 ←南アメリカ大陸のボリビアのラパス、エクアドルのキト

【補】 アフリカ大陸のケニアの内陸のナイロビは高山気候ではありませんが、赤道周辺でも温帯で比較的涼しいことは標高の高さと関係があります。

第2部 令和6(2024)年の 出題傾向

ここでは、令和6(2024)年に実施された、全国都道府県の高校入試の社会科の過去問を分析したものを紹介していきます。
学習やご指導の資料としてご利用ください。

第2部 2024(令和6)年の出題傾向

1. 全体の傾向と設問の分類
 - 1-1. 全体の傾向 (一部公開)
 - 1-2. 都道府県別の傾向 (一部公開)
 - 1-3. 設問の分類
 - 1-4. 基礎知識としての記述と論述

2. 記述(短答)の出題傾向
 - (1) 世界地理の記述 (一部公開)
 - (2) 日本地理の記述
 - (3) 前近代史の記述
 - (4) 近現代史の記述
 - (5) 現代社会・政治の記述
 - (6) 経済・地球社会の記述

3. 論述(説明)の出題傾向
 - (1) 世界地理の論述 (一部公開)
 - (2) 日本地理の論述
 - (3) 前近代史の論述
 - (4) 近現代史の論述
 - (5) 現代社会・政治の論述
 - (6) 経済・地球社会の論述

著作権について

この分析については、掲載されている内容の無断転載・使用を固く禁じます。

1. 全体の傾向と設問の分類

ここでは、全体的な出題傾向について、とくに出題形式に注目してみていきましょう。なお、出題形式については、次のように分類しております。

①記述形式…用語を答えるもの（「短答」ともいいます）。

②論述形式…文章で答えるもの（こちらを「記述」と表す場合もあります）。

③選択形式…記号を選ぶもの。用語を書くものであっても、その用語が図や資料の中にあるものや、高い・低い、増加・減少などを書くものは選択形式として集計しました。

④その他…計算問題や図を描くもの。図に塗るものは、実質的には選ぶ問題なので、選択形式として集計しました。

このほかに、複数の出題形式を組み合わせると小問が構成されていて、両方が合っていてはじめて得点になる設問も出題されています。これらについては、より解答が難しいと考えられる出題形式として分類しております¹。

1-1.全体の傾向

表1は、令和6（2024）年に実施された全国公立高等学校の社会科の入試問題について、全体的な出題状況をまとめたものです。

表1 高等学校の社会科入試の出題状況（令和6〔2024〕年）

	小問数	割合	平均小問数
①選択	1,002	59.4%	21.3
②記述	373	22.1%	7.9
③論述	306	18.1%	6.5
④描画	1	0.1%	0.0
⑤計算	6	0.4%	0.1
(合計)	1,688	100%	35.9

設問数は合計で1,688問、全国平均では1都道府県当たり35.9問になります（中央値は37.0問）²。全1,688問の設問構成をみると、①選択形式が1,002問で全体の59.4%、②記述形式が373問（22.1%）、③論述形式が306問

¹ 「選択形式+記述形式」は、記述形式、「選択形式+論述形式」は、論述形式、「記述形式+論述形式」は、論述形式として分類しました。

² 小問数は配点を基準として集計しました。関連のある設問（例：問題点と解決策を書きなさい）の場合、それぞれ独立して配点が示されている場合は2問として集計しております。なお、配点が示されていない場合は、解答用紙の記載から類推して集計しております。

(18.1%)、④描画形式が1問(0.1%)、⑤計算問題が6問(0.4%)となっています。平均の小問数は、①選択形式が21.3問、②記述形式が7.9問、③論述形式が6.5問、④描画形式と⑤計算問題はほぼ0問です。

出題分野は、

- ・地理…日本地理と世界地理
- ・歴史…前近代史と近現代史
- ・公民…現代社会・政治と経済・地球社会

の6つにわけることができますので、年次による多少のばらつきはありますが、だいたい1つの分野あたり、選択形式が3~4問、記述形式と論述形式はそれぞれ1問が出題されることがわかります。

1-2.都道府県別の傾向

次に、都道府県別の傾向をみておきましょう(表2)。

表2 高等学校の社会科入試の出題状況(都道府県別)(令和6〔2024〕年)

(略)

(略)

(注) 一般的な選抜形式の設問です。

★第1位
第2～5位前後
～第12位前後

最も多く出題されたのは福井県の52問、最も少ないのは東京都の20問です(標準偏差6.63)。

設問数の割合

解答形式別の出題割合の平均値をみると、選択形式60.6%、記述形式21.0%、論述形式18.1%、その他0.3%となっており、中央値は選択形式57.5%、記述形式19.6%、論述形式17.6%、その他0.0%となっています。ただ、選択形式は34.9～100.0%、記述形式は0.0～46.5%、論述形式は0.0～38.9%、その他は0～3.8%というようにばらつきは大きく、出題形式の構成によって多様なタイプの入試がおこなわれていることがわかります。

配点別の割合

*** 略 (9行) ***

1問あたりの配点にみる解答形式の特徴

*** 略 (10行) ***

*** 以下略 ***

2. 記述（短答）の出題傾向

表4は、2024年に実施された全都道府県の高校入試の社会科の設問について、記述形式の設問の出題状況を分野別にみたものです。単純に考えて、各分野の出題割合は、3分類の場合は33%前後、6分類の場合は17%前後になりますが、これをみると、地理が少なく、公民が多い傾向が読み取れます。

表4 記述形式の出題状況（令和6〔2024〕年）

3分類	小問数	割合	6分類	小問数	割合
【1】地理	106	28.4%	(1)世界地理	51	13.7%
			(2)日本地理	55	14.7%
【2】歴史	130	34.9%	(3)前近代史	67	18.0%
			(4)近現代史	63	16.9%
【3】公民	137	36.7%	(5)現代社会・政治	70	18.8%
			(6)経済・地球社会	67	18.0%
(合計)	373	100.0%	(合計)	373	100.0%

次に、その内訳についてみていきましょう。表5は、2024年に実施された全都道府県の高校入試の社会科の設問について、記述形式の設問の出題状況を区分別にみたものです。

*** 略 (8行) ***

表5 記述形式の区分別の出題状況（令和6〔2024〕年）

(略)

では、具体的にはどのような用語が、頻出キーワードとして出題されているのでしょうか。次の節からは、分野ごとにみていきます。単年度の分析ですので、必ずしも全体的な出題傾向をあらわしているわけではありませんが、「どのレベルの用語が出題されるのか」の参考にはなると思います。

(1) 世界地理の記述

表6は世界地理の記述形式の出題状況をまとめたものです。世界地理の設問で、2回以上出題された用語は8語あり、これは世界地理で出題された39の用語の21%をしめています。これらの用語から19問が出題され、これは世界地理で出題された設問50問の38%をしめています。

表6 世界地理の記述で出題された用語

順位	出題回数	用語	用語数	設問数	用語数累計	設問数累計
1	4	モノカルチャー (経済)	1	4	1 (3%)	4 (8%)
2	3	シリコンバレー	1	3	2 (5%)	7 (14%)
3	2	イスラム教 / オーストラリア大陸 / サンベルト / ヒンドゥー教 / ユーラシア大陸 / 大西洋	6	12	8 (20%)	19 (37%)
4	1	※	32	32	40 (100%)	51 (100%)
		(合計)	40	51		

(注) 図中の(%)は、用語数と設問数の各累計について、全体に占める割合を示したものです。

※〔出題回数1回〕

*** 略 (6行) ***

以下では世界地理の記述形式の設問について、出題数の多いものを中心に紹介していきます。なお、文中の「 」内は解答となる語句で、()内の実数は出題された設問数を示しています。

① 基本情報

- ・ 「白豪主義 (1)」が出題されていますが、これは漢字が難しいため、正答率は低いと予想されます。オーストラリアについては、ニュージーランドとともにかつてはイギリスの植民地で、近年はアジアとの結びつきが強まってきていることが出題されます。

② 自然と気候

- ・ 大陸や海洋に関する用語としては、「オーストラリア大陸 (2)」「ユーラシア大陸 (2)」「大西洋 (2)」などが複数回出題されています。

*** 以下略 ***

3. 論述（説明）の出題傾向

表 12 は、2024 年に実施された全都道府県の高次入試の社会科の設問について、論述形式の設問の出題状況を分野別にみたものです。記述形式の場合は、地理の割合が少なくて公民が多かったのですが、論述形式では、そこまでの差はありません。ただ、各分野の中では、世界地理よりも日本地理、前近代史よりも近代史、現代社会・政治よりも経済・地球社会のほうが割合は高くなっています。

表 12 論述形式の出題状況（令和 6〔2024〕年）

3 分類	小問数	割合	6 分類	小問数	割合
【1】 地理	105	34.3%	(1) 世界地理	38	12.4%
			(2) 日本地理	67	21.9%
【2】 歴史	94	30.7%	(3) 前近代史	44	14.4%
			(4) 近代史	50	16.3%
【3】 公民	107	35.0%	(5) 現代社会・政治	41	13.4%
			(6) 経済・地球社会	66	21.6%
(合計)	306	100.0%	(合計)	306	100.0%

次に、その内訳についてみていきましょう。表 13 は、2024 年に実施された全都道府県の高次入試の社会科の設問について、論述形式の設問の出題状況を区分別にみたものです。

*** 略（9行） ***

表 13 論述形式の区分別の出題状況（令和 6〔2024〕年）

(略)

続いて、頻出テーマについて分類ごとにみていきましょう。

(1) 世界地理の論述

表 14 は世界地理の論述形式の出題状況をまとめたものです。世界地理の設問で、2 回以上出題されたテーマは 11 あり、これは世界地理で出題された 22 のテーマの 50%をしめています。これらのテーマから 27 問が出題され、これは世界地理で出題された設問 38 問の 71%をしめています。

表 14 世界地理の論述で出題されたテーマ

順位	出題回数	テーマ	テーマ数	設問数	テーマ数 累計	設問数 累計
1	3	アメリカの農業 / 一人っ子政策と高齢化 / インドとアメリカ合衆国 / 永久凍土 / 西岸海洋性気候	5	15	5 (23%)	15 (39%)
6	2	オーストラリアの特徴 / インドの経済成長 / サバナ気候 / ブラジルの農業 / 植民地 / 熱帯雨林	6	12	11 (50%)	27 (71%)
12	1	※	11	11	22 (100%)	38 (100%)
		(合計)	22	38		

※〔出題回数 1 回〕

*** 略 (4 行) ***

以下では世界地理の論述形式の設問について、出題数の多いものを中心に紹介していきます。また、テーマによっては、実際の解答例をもとに、情報を整理したものを示しております³。テーマに示した () 内の実数は出題された設問数です。また、「」の中の文章は論述問題の解答をあらわしています。また、文中の【】でかこまれたものは、文章作成の条件として与えられた語句です。() 内に示した都道府県名は、先頭がその解答例に該当するもので、2 番目以降は同種類の設問です。

³ 文章の表現上、解答例の一部を削除している場合もあります (ただし、「」内の改変はしていません)。正確な表現は、公開されている解答例をご参照ください。

① 基本情報

(国の分類)

「植民地(2)」

アフリカの直線の国境線は、「【民族】の分布を無視した」(秋田県)ものです。また、ナイジェリアの公用語が英語であるのは、「国内でちがう民族どうしの言葉が通じないと不便なため、【共通】の言語が必要だから」(島根県)です。

(各国の特徴)

中国の「一人っ子政策と高齢化(3)」

資料として示された人口ピラミッドと人口構成の変化から、「一人っ子政策によって少子高齢化が進んだ」(福島県)ことを説明するほか、一人っ子政策が見直された理由として「年少人口割合が減少し、老年人口割合が増加する、少子高齢化が進んだ」(和歌山県・山形県)ことを答える問題などが出題されました。

「インドの経済成長(2)」

インドの自動車産業の成長の要因として、資料から「人口増加が続き、1人あたり国内総生産が上昇するなかで、国内での自動車の【需要】が高まり、その【需要】に応じ、国内販売向けの自動車の【供給】が増え、自動車産業が成長」(宮城県)していることを読み取るものや、欧米の企業が進出する理由として、「少子高齢化が進んでおらず、平均賃金も低いため、安くて豊富な労働力があること。」(福井県)を説明する問題が出題されました。

「インドとアメリカ合衆国(3)」

アメリカ合衆国の企業が、インドに進出することで、業務を効率よく進めることができる理由として、「アメリカ合衆国とインドでは、約半日の時差があるため、アメリカ合衆国が夜の時間にインドで作業を進められる」(富山県・石川県)ことや、「英語を話せる労働者を低賃金で雇うことができ」ることなどを説明する問題が出題されました(鹿児島県)。

*** 以下略 ***

むすび

本教材は、社会科の指導を行う先生方が、授業や受験指導の中で活用しやすい「教材の素材」として設計しました。高校入試において特に重要とされる知識を厳選し、一問一答形式や設問分析を通じて、効率的な学習と指導ができるよう工夫しています。近年の入試問題の傾向を分析し、出題頻度の高いテーマや新たな出題形式についても解説することで、より多面的な指導に役立つ内容となっています。

本教材の特徴は、単なる問題集ではなく、指導者の方が「使いやすい形」で情報を整理している点にあります。一問一答のデータは、必要に応じて編集・加工ができる形式とし、現場のニーズに応じた活用が可能です。また、記述・論述問題の分析では、出題テーマごとの詳細な傾向を示し、実際の解答例を踏まえながら、より実践的な指導が行えるよう配慮しました。

本教材が、教育現場の多忙な先生方の負担を少しでも軽減し、より効率的で的確な指導の手助けとなることを願っています。今後も出題傾向の変化に応じて内容の充実を図り、指導者の皆様にとって、さらに活用しやすい教材となるよう、改訂を重ねてまいります。

〔見本〕 一問一答
高校入試の社会科 テキスト作成の素材
(付録：令和6〔2024〕年の記述と論述の出題傾向分析)
Ver. 1.0
令和7〔2025〕年3月3日
発行 shakai100.com / 経済学道場

本教材の無断転載を禁じます。